

<p><b>王寺町保健センター：特技ボランティア登録・派遣</b></p> <p>住所 〒636-0003 奈良県北葛城郡王寺町久度 2 丁目 2-1-501          (TEL)0745-33-5000 (FAX)0745-33-5001          (E-Mail)hoken@ibell-oji.com (ホームページ)http://www.town.oji.nara.jp/          人口 23,367 人(出生数 211 人)          母子保健担当者: 事務 保健師 栄養士 歯科衛生士 その他(医師、歯科医師、臨床心理士、保育士、保健士、助産師、看護師)          全保健師数 8 人(母子保健担当保健師数 7 人) 区分: 市町村(保健センター等)</p>	
事業課題	<p>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</p> <p>1. 王寺町に今までなかったから          2. 子どもたちが多様な経験を          3. 特技を持った人たちが活かし活躍する場をつくる          4. 世代間交流になる</p>
事業の背景	
提案者	住民
事業のねらい・目標	<p>特技ボランティアを募集し、ボランティアの特技や利用者の要求に応じて乳幼児の集まりの場に派遣する</p> <p>■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する          ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</p>
数値目標	数値目標あり
対象	父親 母親 家族 その他(すべての住民)
実施期間	平成 15 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月 5 年計画
事業内容	<p>1. 子どもと親の集まりに目的ができ、活性化する          2. 町内の人たちのコミュニケーションが増える          3. 特技ボランティアの人たちに対する尊敬の念を養う          4. 参加する人たちの幅が広がる          5. 登録したボランティアが生きがいを感じる</p> <p>■個人支援や集団支援のツール開発 ■ネットワークの推進</p>
協力機関	保育園 幼稚園 公民館 老人クラブ その他(全住民)
住民参加状況	計画から参加
従事者内訳	保健師 その他(看護師・栄養士・児童民生委員・保育士・住民)
補助金・助成金	なし

事業の評価	
今後の課題	
取り組みの事業に関するホームページ	http://www.town.oji.nara.jp/
キーワード	特技 ボランティア
*** コメント ***	<p>ここに注目！前回セレクト 2006 では、ちびっこクリーン活動が取り上げられており、ゴミに関するマナーを使って、地域の中での子育て支援を行っていた。今回は、特技ボランティアを住民から募集し、その特技や利用者の要請にしたがって、ボランティアを乳幼児の集まりに派遣するという事業を取り上げた。前述の事業と同様に、地域の力をうまく活用して子育て支援をおこなう事業であり、その視点は評価できる。今後、ボランティア数などによる評価が待たれるところである。(KS)</p>

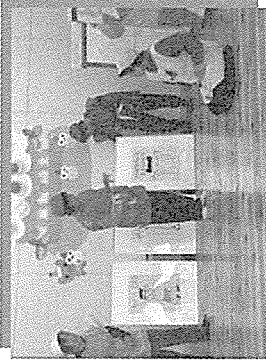

**117年度 特技ボランティア登録者**

年齢	特技内容	職業
84歳	別に特技はございません。子育ての経験と折り紙など楽しんでいきます。子どもさんには難しいと思います。	
74歳	マジック	
74歳	ハーモニカ演奏	
69歳	読み聞かせ	併役
66歳	手遊び・リズム・お話	元幼稚園教員
66歳	お手玉	
62歳	シヤボン玉遊び	
60歳	絵本の読み聞かせ・紙芝居・民話の語り・舞(日舞)	
59歳	布の創作玩具・布絵本など・作品のみ貸してもらう	
58歳	歌(童謡)	
58歳	絵本の読み聞かせ	
57歳	人形劇サークル(ちろりん村)	
56歳	ペープサート・人形劇・ハネルシアター・エプロンシアター・ストーリーテリング	
54歳	フルート演奏	
52歳	絵本の読み聞かせ	
52歳	お話・わらべうた・手遊び	
50歳	音楽を通して障児・一般児(多動・人見知り・集中力アップ・情緒不安定など)、老人他に対してミュージック・手遊び・リズム・その人がその人らしく生きる事に歌・楽器・手遊び・リズム体験)の力を使って効果を出す。多くの人と楽しいひとときを過ごす	ピアノ講師・音楽療法
41歳	歌・英語	



御杖村福祉課 御杖村保健センター：子育てボランティア	
住所 〒633-1302 奈良県宇陀郡御杖村菅野 1581 (TEL)0745-95-2828 (FAX)0745-95-3567 (E-Mail)fukushih@vill.mitsue.nara.jp	
人口 2,385人(出生数 11人)	
母子保健担当者：保健師、全保健師数 1人(母子保健担当保健師数 1人) 区分：市町村(保健センター等)	
事業課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</li> <li>■健康日本 21 に含まれる母子保健に関するテーマ(栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進)</li> </ul>
事業の背景	H9年母子保健計画のアンケートの結果、地域で共に助け合って子育てしていく「子育てボランティア」への参加意欲が確認された。子育て交流会での子どもの見守りからスタートした。次世代育成支援計画の中で「安心して子育てできる」というキーワードから、緊急時の一時あずかり事業が始まった。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	誰もが地域の子育てに関われる意識、体制をつくっていく。
数値目標	■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する
対象	数値目標なし 母親 関係者 その他(住民一般)
実施期間	平成 15 年 4 月 ~ 未定
実施内容	子育て交流会 健診時の子どもの見守り 緊急時の一時あずかり 保育所での食育健康教室の開催
事業内容	■既存事業の工夫 ■ネットワークの推進
協力機関	保健センター・保健所 地域のボランティア その他(社会福祉協議会・国保連合会)
住民参画状況	計画から参加
従事者内訳	保健師
補助金・助成金	都道府県

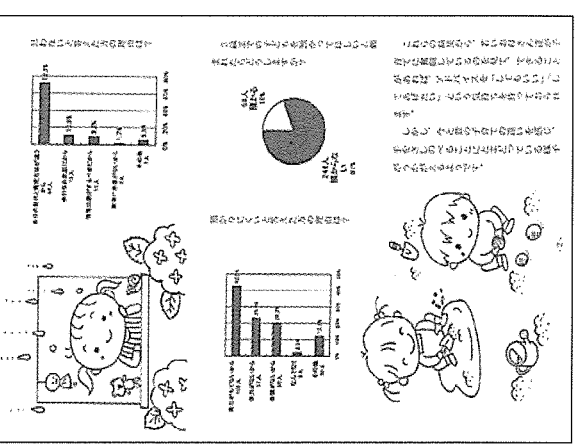
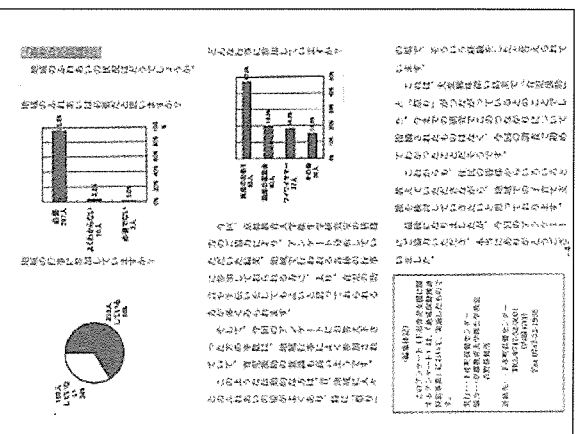
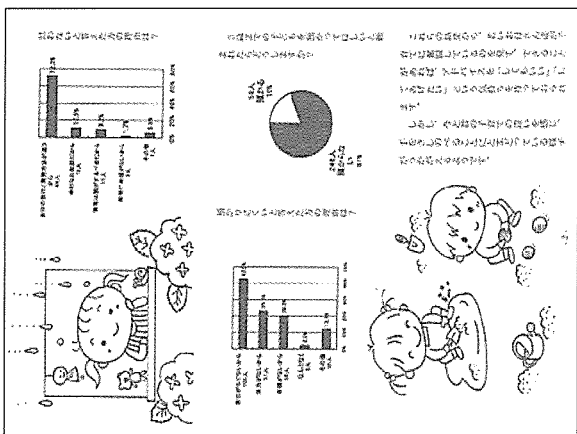
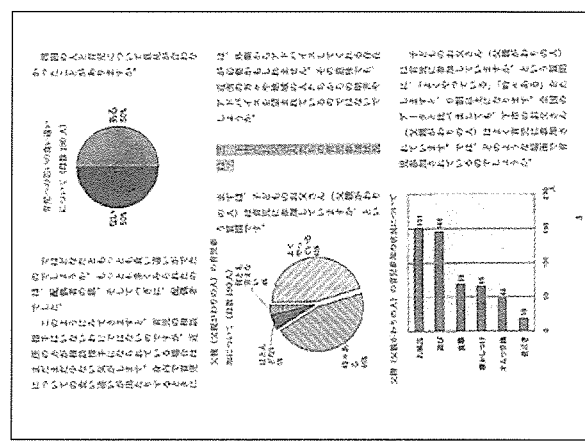
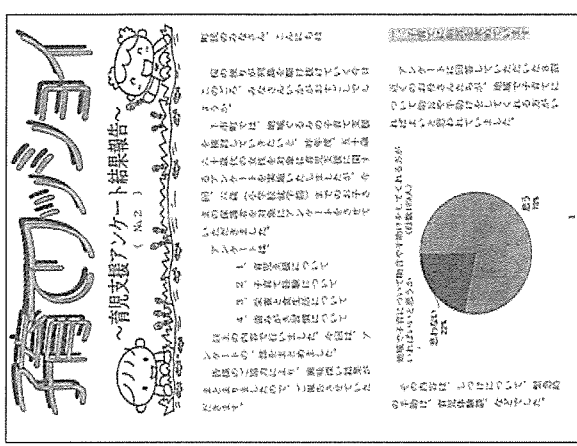
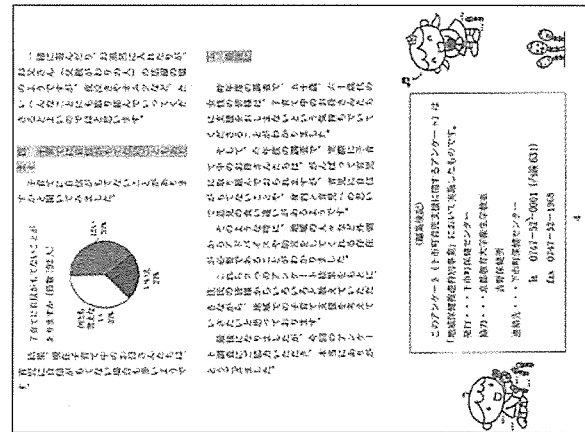
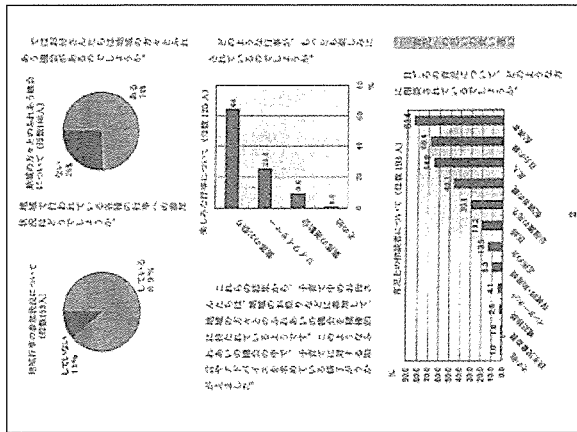
事業の評価	一時あずかりの件数 保護者の声、ボランティアの声 事業展開の広がり
今後の課題	ボランティア人数の増加
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	交流・安心・連携
*** コメント ***	ここに注目！子育てボランティアに対する参加意欲を、地域に対するアンケートで確認し、そこから健診時の子どもの見守り、緊急時の一時預かりなどの事業をボランティアによっておこなっている。利用した保護者の声や、利用件数などでしっかりと評価を行っている。ボランティアの広がりによって、子どもや保護者に対して、どのような効果が現れたのかを今後評価していけば、さらに意義が深まるだろう。(KS)

<p>子ども一時あずかりについて</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>目的 保護者の一時的な保育希望に応えられる場と人材をつくり、安心して子育てできるしくみをつくる。</li> <li>一時保育の内容について 緊急的保育：保護者の病状や受診、冠婚葬祭などで保護者での保育が一時的に困難 非定期的保育：講演会・リフレッシュ参加などで</li> <li>児童の年齢について 特に制限なし</li> <li>保育時間及び場所 時間：午前8：30～午後5：00(土日曜、祝日、及び年末年始は除く) 場所：保健センター</li> <li>一時あずかりの担当 保健福祉課に登録された子育てボランティアのうち、「保健センターでの一時あずかり」に承諾された方：9人(平成18年12月31日現在) 一時あずかりは、必ず2名以上のスタッフで行う</li> <li>安全と健康管理について 保護者が行う ① 見守の送り迎えは、保護者が行う ② 一時あずかり当日、児童の健康状態を把握する(問診票に保護者が記入) ③ 一時あずかり中の事故等があった時は、応急処置をとり、保護者に連絡する</li> <li>利用料 1時間100円(帰るときに支払っていただきます)。</li> <li>申込みについて 申込みの受付は、保健福祉課で行います。 時間外の申込みについては着日直で対応します。 利用希望のある方については、前もって一時あずかり登録申請書に必要事項を記入のうえ、提出してください。</li> <li>当日、保護者で準備して頂くもの ① 見守はまわりお茶、お弁当、お茶 ② 必要なおやつ ③ 新幹線、紙オムツ</li> </ol>	 
--	--

<p>下町保健センター(健康増進課)： 壮年期の子育て支援プログラム</p> <p>住所 〒638-0041 奈良県吉野郡下市町下市 1962 (TEL)0747-52-0001 (FAX)0747-52-1968</p> <p>人口 7,788 人(出生数 33 人)</p> <p>母子保健担当者： 保健師、全保健師数 3 人(母子保健担当保健師数 1 人) 区分：市町村(保健センター等)</p>	
事業課題	<p>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</p>
事業の背景	<p>50～69歳の対象者は、自分の孫の育児支援から手が離れ、自分の家庭に限定されない視野を持っていると考えられ、気力・体力も十分にあり、地域における育児支援にも協力が得られると期待される。このため、対象者の育児支援に関するアンケートを行うことにより、地域に合わせた育児支援の方法を検討する資料とする。</p>
提案者	母子保健担当者 その他
事業のねらい・目標	<p>記入なし</p> <p>■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める</p>
数値目標	数値目標なし
対象	その他
実施期間	不明～未定
実施内容	<p>50～69歳の女性を対象に、乳幼児の育児に焦点をあてて、育児支援に関する意識調査”下町育児支援に関するアンケート”を実施し、地域にあわせた育児支援の方法を検討する。</p> <p>平成 14 年にアンケートを実施。6 割以上が手助けをしてもよいと思う思いがあり、そういう人たちは地域行事にもよく参加し活動的である。特に祭りを通して地域とつながりをもっていたようである。</p> <p>■その他(記入なし)</p>
協力機関	保健センター・保健所 大学・研究機関 その他(京都教育大学)
住民参加状況	その他(記入なし)
従事者内訳	保健師 その他(記入なし)
補助金・助成金	その他(記入なし)
事業の評価	<p>アンケートの結果、壮年期の人たちは育児支援に前向きであるが、今と昔の育児の違いを感じ手をさしのべることとまでまっていることがわかった。また、育児支援に積極的な人ほど祭りという場を通して人とのふれあいを多く持っていた。現在、少子化、核家族化等ふれあいが少なくなっている中、人々とのふれあいを通して子育てもより前向きにしていけることを改めて考えさせられる結果であった。</p>

今後の課題	地域育児支援のできる人材の確保、また育児支援ボランティアを作った場合の運営方法、支援方法
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	既存データ 育児支援 壮年期
*** コメント ***	<p>親にとって子育てのしやすい環境を作ったり、また健やかな子どもを地域で育てていくためには、育児を支援する体制を地域で整える必要がある。そのためには、子育て経験があり、知識・経験の豊富な壮年期の女性の協力を得るのも一つの有用な方法である。この取り組みは、壮年期の女性が、地域における育児支援に協力することについてどのように考えているかを調査したものである。育児支援にあたって、地域の壮年期の女性の力に着目した点で興味深い。アンケート調査より、約 6 割の壮年期の女性が若い母親に対して育児に関する援助・助言をしてもよいと思っていることが明らかになった。今後、これらの女性の力をどのように活用するかについて検討し、具体的な活動につなげていくことが期待される。(TT)</p>





<b>橿原市健康増進課：両親学級</b>	
住所	〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町 9-1 (TEL)0744-22-8331 (FAX)0744-24-9124 (E-Mail)kenko@city.kashihara.nara.jp
人口	125,719人(出生数1,145人)
母子保健担当者	保健師、全保健師数 12人(母子保健担当保健師数 4人)
区分	市町村(保健センター等)
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	少子化・核家族化による家族形態の変化や地域社会の変化に伴い、家庭や地域における子育て機能が低下し、子育てに不安や悩みを抱く親が増加している。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>父親・母親に子どもを持つ親としての意識を育成するとともに、特に社会全体の父親の育児参加への認知度を高めていく。また、すでに子育て経験のある夫婦と、より若年の夫婦間の交流を図り、教材や講話だけでは伝えきれない子育ての苦勞、醍醐味、価値を理解し、考えを深めていただく。</li> <li>■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める</li> <li>■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する</li> <li>■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</li> </ul>
数値目標	数値目標なし
事業内容	<p>対象 父親 母親 妊産婦 関係者</p> <p>実施期間 平成 17 年 11 月 ～ 平成 20 年 3 月 3 年計画</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション「市の子育て情報の紹介」</li> <li>・助産師による講話「父親の役割」</li> <li>・沐浴実習を一組ずつ体験 ・妊婦体験</li> <li>・ビデオ鑑賞「赤ちゃんそのすばらしき生命」</li> <li>・人形を使いおむつ交換実習</li> <li>・乳児とその親を対象に保育士が赤ちゃんのできる遊びを紹介</li> <li>・妊婦及びその夫が、先輩夫婦と交流し、意見交換をしたり、子どもを抱いたり、あやしたりして世話をすふれあい体験を行う</li> <li>・アンケートとメッセージの記入</li> <li>■既存事業の工夫 ■その他(仲間づくり)</li> </ul> <p>協力機関 その他(児童福祉課)</p> <p>住民参画 状況 その他(教室終了後、アンケート結果より内容検討)</p>

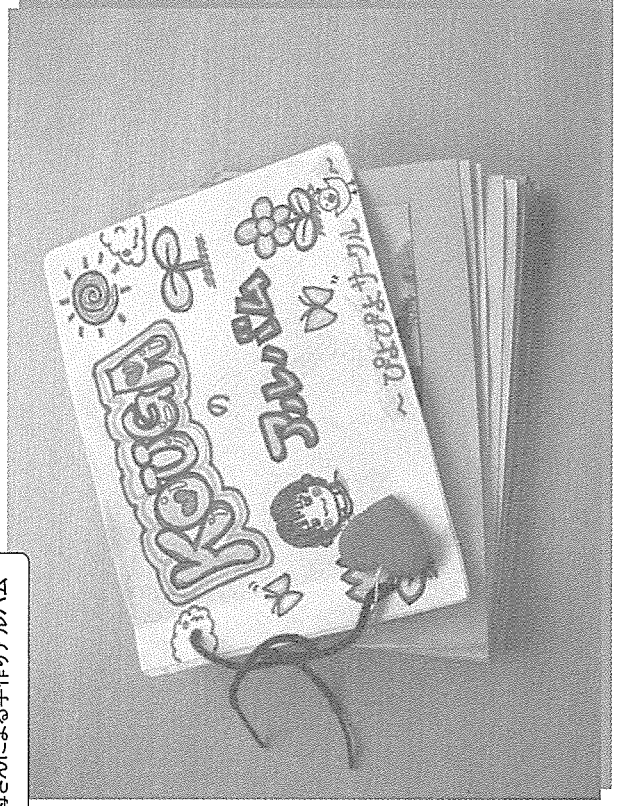
従事者内訳	保健師 助産師 保育士
補助金・助成金	なし
事業の評価	毎回、終了時にアンケートを実施。いろいろな項目で良かったという評価が多い。
今後の課題	
取り組みの事業に関するホームページ	父親の育児参加
キーワード	
コメント	<p>・・・コメント・・・</p> <p>母親のみでなく父親も対象とした両親学級は様々な自治体で行われている。その中でもこの取り組みは、両親学級の場において妊婦およびその夫が、子育て経験のある先輩夫婦と交流したり、乳児とのふれあい体験を行うことができるようになっており、充実した内容となっている。</p> <p>少子化・核家族化のために、出産前の夫婦が育児中の夫婦と交流を持ちたり、実際に乳児に接することのできる機会は減少している。子育て中の先輩夫婦と交流を持ちたり、実際に乳児と触れあうことで、育児の楽しみや苦勞話を直接聞いたりして出産・子育てについて教材や講話からは伝わらない内容を知ることができ、これからの育児について考えるよい機会になっていると思われる。(TT)</p>



東吉野村住民福祉課：子育てサロン	
住所 〒633-2492 奈良県吉野郡東吉野村大字小川99番地 (TEL)0746-42-0441 (FAX)0746-42-0446 (E-Mail)myosino@aito.ocn.ne.jp	
人口 記入なし (出生数 記入なし)	
母子保健担当者：保健師、全保健師教1人(母子保健担当保健師教1人) 区分：市町村(保健センター等)	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	少子化の進む本村において、入園するまで同じ年頃の子同士、親同士が知り合う機会が少なく、育児について悩みを共有したり、情報交換しにくい状況。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	同じ年頃の子を持つ母親同士が交流し、育児に関する様々な悩みを共有したり、情報交換できる。また、母親同士の仲間づくりを進め、自主的に活動できるサークルの形成を目指す。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する
数値目標	数値目標なし
対象	乳児 幼児 母親 妊産婦
実施期間	平成17年6月～未定
実施内容	毎月のサロンで子どもの成長写真を撮り、お母さんに手作りアルバムを作ってもらっている。
事業内容	■既存事業の工夫
	その他(民生委員(主任児童委員))
	実施主体側として
	保健師
	市町村
補助金・助成金	
事業の評価	サロンに来ている母親同士で自主的に交流する様子が見られた。

今後の課題	・子育てサロンに協力してくれる子育てサポーターの育成 ・育児サークルの形成
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	子育て、仲間づくり
*** コメント ***	現在、地域で人の交流が行われる機会自体が減っており、また少子化・核家族化の影響もあり、入園前の子どもを持つ母親同士が交流する機会が減少している。母親の育児についての不安や悩みを解消し、健やかな子どもを育てていくためには、育児については、育児についての体験や悩みを母親同士で共有することも重要である。母親同士の交流を目的とした「子育てサロン」「育児サークル」などは各地で行われているが、この取り組みでは毎月のサロンで子どもの成長写真を撮り、母親が手作りアルバムを作るという工夫を行っている。成長写真やアルバムを通して母親同士の会話が広がるのではと思われる。また、このようなサロン・サークルを実施する際、参加者を増やすために何か趣向を凝らすことも必要であり、その点で参考になる取り組みと思われる。(TT)

お母さんによる手作りアルバム



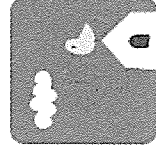
<b>岩出市役所保健推進課：子育てサークル紹介</b>	
住所 〒649-6256 和歌山県岩出市金池 92 (TEL)0736-61-2400 (FAX)0736-61-2411 (E-Mail)h_suishin@city.wade-ig.jp (ホームページ)http://www.city.wade.wakayama.jp/	
人口 51,283 人(出生数 538 人) 母子保健担当者：事務 保健師、全保健師数 6 人(母子保健担当保健師数 2 人) 区分：市町村(保健センター等)	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	地域で母親たちの自主的な育児サークルが出来ているが、その情報がなかなか周知されていない状態で、健診でも、「子どもの友達が近くにいない」「育児サークルを紹介してほしい」といった声が聞かれる。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	育児サークルの支援を通して、地域全体の子育て力量を高める。
数値目標	■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する 数値目標なし
対象	乳児 幼児 母親
実施期間	平成 15 年 6 月 ～ 未定
実施内容	センター内の掲示板を一か所、育児サークル紹介用にし、希望する育児サークルに活動の PR ちらしの掲示を規定内で許可する。それを健診や健康相談で来所した子育て中の母親に見てもらい、自主的な交流につなげてもらう。
事業内容	■情報システムの構築 地域のボランティア その他(サークル代表者) 保健師 なし
事業の評価	評価方法については検討中。

今後の課題	
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	子ども 育児不安
**** コメント ****	<p>掲示板を活用して、育児サークルの紹介、育児サークル相互の交流に役立てている事例である。一般的に、育児サークルから依頼や希望があった場合に、他の掲示物と混在して、保健センター内の掲示板を使ってもらっている市町村は多いと考えられる。しかし、育児サークル専用の掲示板を設けている市町村は、余り多くないと考えられる。大きな予算がなくても、他の市町村が参考にすることができると言えよう。なお、この掲示板を活用した支援を入り口としながら、今後ますます育児サークル支援の展開を行っていただきたい。(TO)</p>



<p><b>和歌山県紀美野町保健福祉課 絵本を介した育児支援事業</b></p> <p>住所 〒640-1121 和歌山県海草郡紀美野町下佐々1408-4 (TEL)073-489-9960 (FAX)073-489-6655 (E-Mail)hino-a@wakayama.kimino.lg.jp (ホームページ)http://www.kimino.wakayama.jp/ 人口 11,885人(出生数 60人) 母子保健担当者: 事務 保健師 栄養士、全保健師数 9人(母子保健担当保健師数 2人) 区分: 市町村(保健センター等)</p>	
事業課題	<p>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</p>
事業の背景	<p>「乳幼児健診の場で共感関係のとれない子どもが多い」「保育所などで人の話が聞けない子どもが増えている」「テレビ・ビデオを長時間見ている子どもが多い」「子どもの関わり方がわからない親が増えている」などの意見が関係者より出される。子どもの健やかな成長・発達を支援する一つの手段として、妊婦教室、子育て支援センター等で絵本の読み聞かせに取り組んできたが、より多くの親子に絵本に絵本にふれる機会を持つよう実施する事となった。</p>
提案者	住民 母子保健担当者
事業のねらい・目標	<p>親子のふれあい・人とのコミュニケーションを豊かにする。 感受性(喜怒哀楽、人への思いやり、愛情)や想像力を育てる。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する</p>
教値目標	教値目標なし
対象	新生児 乳児 幼児 父親 母親 妊産婦 家族
実施期間	平成 14 年 4 月 ～ 平成 19 年 3 月 5 年計画
実施内容	<p>以前より妊婦教室にて絵本の読み聞かせを実施しているが、14年度から1歳までの子どもを持つ保護者にも参加を呼びかけ、先輩ママと妊婦の交流もかねて実施(絵本の読み聞かせ・絵本の紹介)。また、妊婦教室修了者や母子保健推進員による新生児訪問時(全新生児対象)に絵本をプレゼントしている。15年度からは、年間4回の乳児健診(9～11か月児対象)時にボランティアによる絵本の読み聞かせを実施している(18年度は日程が合わず実施できず)。11年度にボランティアによる絵本の読み聞かせを実施している遊びの教室(5か月～1歳6か月児対象)の教室、1歳6か月～保育所入所までの見対象の教室(2歳児)を対象の教室では保育士による絵本の読み聞かせを実施している。</p> <p>■既存事業の工夫 ■相談機能の強化 ■ネットワークの推進</p>
協力機関	子育て支援センター 保育園 教育委員会 地域のボランティア
住民参画状況	実施主体側として

従事者内訳	保健師 児童福祉主事 保育士 その他(おはなしサークル「野いちごの会」)
補助金・助成金	なし
事業の評価	絵本に親しむ保護者の増加により、図書館の利用や、支援センターの絵本の貸し出しが増えています。必要性は定着してきています。また、絵本をきっかけに子育てサークルや読み聞かせのボランティアが誕生したり、母親同士の交流が深まり、悩みなどお互いに解決できるようになり、ともに育つ関係ができてきています。(目標に対しての評価は、長期的に見ていく必要があります、今後の課題である。)
今後の課題	
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	子ども 育児不安
***コメント***	<p>子どもの健やかな成長・発達を目的として、絵本の読み聞かせを日常生活に取り入れるように支援するブックスタート事業は様々な自治体で行われるようになってきています。その中で、この取り組みは妊婦教室で絵本の読み聞かせを実施している点や1歳までの子どもを持つ保護者が妊婦教室と一緒に参加することで先輩ママと妊婦の交流が持てるようになってきている点で、充実した事業といえる。</p> <p>また、実施した事業に対する評価も上がり行われており、よく出来た事業といえる。(TT)</p>





<p><b>佐伯市直川振興局：親子の集い</b></p> <p>住所 千879-3101 大分県佐伯市直川大字赤木105番地 (TEL)0972-58-2111 (FAX)0972-58-2811</p> <p>人口 2,870人(出生数 15人)</p> <p>母子保健担当者：保健師、全保健師数1人(母子保健担当保健師数1人) 区分：市町村(保健センター等)</p>	
事業課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</li> <li>■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ(栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進)</li> </ul>
事業の背景	過疎化・少子化に伴い、近隣に同年代の子どものいる家庭がなく、母子ともに仲間ができていく環境になってきたこと。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の遊びや親子のふれあいを通して、仲間づくりのきっかけとすることができる</li> <li>・必要に応じて保健師や栄養士に不安や悩みを相談することができる</li> <li>■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める</li> <li>■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する</li> <li>■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</li> </ul>
数値目標	数値目標なし
事業内容	<p>対象 幼児 父親 母親 家族</p> <p>実施期間 平成7年4月～未定</p> <p>・対象は満1歳～就園前の在宅(保育所に通っていない)の幼児とその母親、家族。 ・毎月1回開催</p> <p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節に応じた遊び(節分、ひなまつり、川遊び、七夕、芋植え・芋掘り、クリスマス等)</li> <li>・参加者間の交流</li> <li>・栄養士による手作りおやつへの指導</li> <li>・必要時個別相談(保健師・栄養士による)</li> <li>■相談機能の強化</li> </ul>
協力機関	直川家庭教育推進協議会 その他(ほぼ毎回、主任児童委員さんが参加)
住民参加状況	保育サポーター(有償ボランティア・活動内容によりページャー業務を依頼)
従事者内訳	保健師 栄養士 事務職員

補助金・助成金	その他(大分県家庭教育支援総合推進事業)	
事業の評価	参加者数・参加者の満足度・波及効果(事業開催日以外の交流等)の有無等により年度毎に評価。参加者は毎年固定傾向にあるが、参加した母親同士・子ども同士では事業をきっかけに繋がりができ、日常的に交流が見られるようになっている。	
今後の課題	少子化に伴い対象者が減少してきている。他地域のグループとの交流等、開催方法の検討が必要。	
取り組みの事業に関するホームページ	なし	
キーワード	育児支援 仲間づくり	
***コメント***	人とかかわって遊ぶことは、子どもの社会性を育てる。季節を肌で知ることが、子どもの身体性を育てる。いまでは、子どもも活動は低調な、もしくは廃止された地域が多いという。佐伯市では、月に1回という高頻度で、季節に応じた遊びを子どもたちに体験させるべく、地域とともに取り組んでいる。自分の意になること、意にならないこと・・・様々なことを、季節を通じて周りの人とともに刻んでいく。その豊かな時間を想像できる取り組みである。(KM)	

平成18年度「親子の集い」年間計画・実績

年	月	日	活動内容	実績		備考
				活動内容	参加者数	
年	月	日	活動内容	組	数	計
18	4	27	こいのぼり作り	3	3	4
	5	17	雨天・室内自由遊び	5	5	11
	6	7	お芋植え	2	2	4
	7	5	七夕飾り作り	5	5	12
	8	3	川遊び(宇目・直川合同)	7	8	10
	9	6	手作りおやつ作り	6	6	14
	10	5	外遊び	9	9	12
	11	1	お芋掘り	10	11	21
	12	22	クリスマスケーキ作り	9	9	13
19	1	11	風作り・扇あげ	4	5	7
	2	2	節分豆まき			0
	3	2	ひなまつり			0
年間延				60	63	143

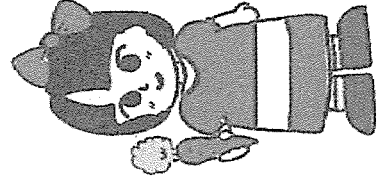
(組) (人) (人)

「健康日本21に含まれる母子保健に  
関するテーマ」



<p><b>平泉町保健センター：健康家族の休甘日キャンペーン</b></p> <p>住所 〒029-4192 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2                  (TEL)0191-46-5571 (FAX)0191-46-2204                  (E-Mail)hoken@town.hiraizumi.iwate.jp (ホームページ)http://www.town.hiraizumi.iwate.jp/                  人口 9,043人(出生数 57人)                  母子保健担当者：保健師、全保健師数 6人(母子保健担当保健師数 2人)                  区分：市町村(保健センター等)</p>		
事業課題	<p>■健康日本 21 に含まれる母子保健に関するテーマ(栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進)</p> <p>昭和 54 年から歯科医師の協力のもと幼児から中学生までの一斉歯科検診をはじめ様々な歯科保健事業に取り組んだ結果、WHO の「2000 年までに 12 歳児の DMFT を 3 本以下」という目標を平成 4 年には達成した。しかし、子供の歯を予防するためには更に地域全体で歯予防に取り組む必要があると考え、毎週月曜日は甘い物を食べたり飲んだりしない日「休甘日」とするキャンペーンを開始した。</p>	
提案者	母子保健担当者 その他(国保歯科診療所医師)	
事業のねらい・目標	<p>毎週月曜日は甘い物を食べたり飲んだりしない日「休甘日」と定め、地域全体で歯予防に取り組むことを推進すると共に、食生活の乱れは生活習慣病を起こす誘因となるため正しい食生活を身につけ、健康的な生活を営むことを目標としている。</p> <p>■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</p>	
数値目標	数値目標あり	
事業内容	対象	その他(地域住民全て)
	実施期間	平成 9 年 4 月 ~ 平成 19 年 3 月 10 年計画
実施内容	<p>毎週月曜日は甘い物を食べたり飲んだりしない日「休甘日」と定め、防災無線や町広報等で町民に周知する他、各乳幼児施設、小中学校の夏季及び冬休み期間にはお便りを発行し、休甘日の推進に努めている。また、町内の幼稚園、保育所での 4-5 歳児歯科検診や 6 月の歯の衛生週間等に併せ、休甘日キャラクター「キュウちゃん」が登場する紙芝居などを使って歯にいいおやつを選び方や生活リズムに関する話やブラッシング指導など衛生教育を行っている。</p> <p>■その他(記入なし)</p>	
協力機関	保育園 幼稚園 学校 大学・研究機関 その他(国保歯科診療所)	
住民参画状況	その他(「休甘日」キャラクターを町民の方に作成してもらい、名称は公募し、「キュウちゃん」とした。)	
従事者内訳	保健師 栄養士 歯科医師 保育士 養護教諭	

補助金・助成金	なし
事業の評価	<p>地域全体が週に1度の「休甘日」を実行しそれを継続していくということは大変難しい面もあるが、これまで、継続して周知してきたことにより「休甘日」という言葉自体は、住民に広く知られるようになった。休甘日キャンペーンとしての数値目標はないが、健康ひらみずみ21計画によって「3 歳児及び 12 歳児の一人平均歯数」や「幼児期においておやつ時間の時間が決まっている者の割合」等、歯科に関する目標値を定めていることから、今後計画の見直しの際に事業の評価の一つとする予定である。</p> <p>12 歳児の一人平均歯数:0.88 本 (平成 17 年度歯科検診結果より)</p> <p>事業がマンネリ化しないよう、各関係機関との連携を図りながら地域全体の歯予防の推進に努めていくことが望まれる。</p>
今後の課題	事業がマンネリ化しないよう、各関係機関との連携を図りながら地域全体の歯予防の推進に努めていくことが望まれる。
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	歯科保健、休甘日
*** コメント ***	<p>ここに注目！地域全体で歯に取り組む活動がうまくいっている事業であり、ポピュレーションアプローチの好例として注目します。「休甘日」のネーミングの良さに加えて、防災無線による周知や、休甘日キャラクター「キュウちゃん」の設定等、住民が楽しんでやっているのが感じられます。「休甘日」が、歯減少などの数値目標改善につながっているかどうかの評価はこれからでしようが、成果が期待されます。また、大人の休肝日のポイントも期待でき、子どもと大人と一緒に取り組める広がりも感じます。このような活動は地域の財産の1つとして大事に育んでもらいたいと思います。(HN)</p>



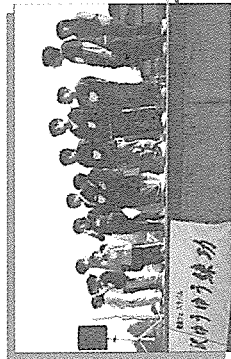
休甘日キャラクター

キュウちゃん

<p><b>胆沢町健康福祉課(平成18年2月20日 市町村合併により奥州市胆沢区)</b>  <b>: 歯の健康づくりモデル事業</b></p>	
<p>住所 〒023-0401 岩手県胆沢郡胆沢町南都田字大持50                  (TEL)0197-46-2977 (FAX)0197-46-3135 (E-Mail)miyuki-o@town.isawai.wate.jp</p>	
<p>人口 18,000人(出生数 140人)                  母子保健担当者: 保健師、全保健師数7人(母子保健担当保健師数1人)                  区分:市町村(保健センター等)</p>	
事業課題	<p>■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ(栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進)</p>
事業の背景	<p>当町における子ども歯有病者率は近隣市町村に比較して高い。歯は生活習慣に大きく関係していることや子どもだけでなく家族や地域の環境にも影響を受けやすいことを考え、平成13年度に「健康いさわ達者の里21プラン」を策定し、歯の健康づくりを重点事業に掲げ目標を指標化した。目標達成のため、町内でも小学校における歯有病者率の高い地区をモデル地区に設定し、重点的に活動を推進していくことが必要と考えた。</p>
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	<p>モデル地区の住民が、歯の健康について考える機会を持つことにより、知識が増え、意識の向上が図れ、行動変容ができることを目標にする。</p> <p>■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める                  ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する                  ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</p>
数値目標	数値目標あり
対象	幼児 学童 成人(父親 母親) 高齢者
実施期間	平成14年4月～平成17年3月 3年計画
協力機関	保育園 幼稚園 学校 教育委員会 病院 地域のボランティア その他(公民館)
住民参画状況	実施主体側として
従事者内訳	保健師 栄養士 看護師 歯科医師 歯科衛生士 保育士 養護教諭 その他(地域の役員: 民生委員、区長、教育実践班長、老人クラブ会長、保健員、食生活改善推進委員、ボランティア)
補助金・助成金	都道府県

平成14年度:	<p>モデル地区の保育園児・小学生の保護者を対象に意識調査を実施。                  地域のふれあいサロンに向き歯科健診・相談を実施し意識啓発を行う。(成人・高齢者対象)地域の祭事に歯科相談所を開設。</p>																								
平成15年度:	<p>地域の祭事でむし歯のない子を紹介。(小・中学生)                  地域の教育振興活動と一緒に歯の健康づくり教室※を開催。(幼児・小学校の親子対象)                  保育園、小・中学校との連絡会強化。                  地区公民館で歯科講演会を開催。                  ※歯の健康づくり教室:砂糖量の確認(ジュース作り体験)、位相差顕微鏡を使用し口腔内チェック、咬合カチエック、染め出しとブラッシング</p>																								
平成16年度:	<p>平成15年度の活動を継続。歯科相談や歯の健康づくり教室の依頼が増加。                  3か年モデル地区活動のまとめとして、歯の健康づくり発表会を地区公民館で開催。従事者各々の立場から活動内容を報告する。                  保育園:フッ素洗口の実施を計画、噛みごたえある食料を給食に取り入れている。                  小学校:虫歯予防標語を募集、入選標語をステッカーにし家庭に配布。夏休み「ノージュースデー」に取り組んだ。                  食生活改善推進員:紙芝居の作成(食育含む)、カルシウムの多い料理の普及活動中                  ……等</p>																								
■ネットワークの推進	<p>・幼児歯科健診における歯状況、保育園・小学校・中学校での歯科健診における子どもの歯状況、成人歯科健診における歯周病疾患の状況、モデル地区での意識調査(活動前・活動後) ※数値評価については下記参照                  ・歯の健康づくりの取り組みと行動変容(個人、家庭、保育園、学校、地域、行政)                  &lt;目標&gt; 幼児期、学童期のむし歯をもたない子を増やす。</p>																								
事業の評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標の目安</th> <th>基準値(H13年度)</th> <th>H16</th> <th>H22(目標年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1歳6か月児</td> <td>97.8%</td> <td>97.6%</td> <td>95%以上</td> </tr> <tr> <td>2歳児</td> <td>87.3%</td> <td>93.6%</td> <td>90%以上</td> </tr> <tr> <td>2歳6か月児</td> <td>68.9%</td> <td>85.5%</td> <td>80%以上</td> </tr> <tr> <td>3歳児</td> <td>42.9%</td> <td>60.5%</td> <td>70%以上</td> </tr> <tr> <td>12歳児</td> <td>10.5%</td> <td>19.9%</td> <td>40%以上</td> </tr> </tbody> </table>	指標の目安	基準値(H13年度)	H16	H22(目標年度)	1歳6か月児	97.8%	97.6%	95%以上	2歳児	87.3%	93.6%	90%以上	2歳6か月児	68.9%	85.5%	80%以上	3歳児	42.9%	60.5%	70%以上	12歳児	10.5%	19.9%	40%以上
指標の目安	基準値(H13年度)	H16	H22(目標年度)																						
1歳6か月児	97.8%	97.6%	95%以上																						
2歳児	87.3%	93.6%	90%以上																						
2歳6か月児	68.9%	85.5%	80%以上																						
3歳児	42.9%	60.5%	70%以上																						
12歳児	10.5%	19.9%	40%以上																						
今後の課題	<p>・今後も活動を継続、支援する。                  ・モデル地区活動の内容を町内全地区に広め、歯の健康づくり活動を実施し、ネットワーク強化する。</p>																								
取り組みの事業に関するホームページ																									

キーワード	記入なし
コメント	<p>ここに注目！歯の健康づくり事業に地域のお祭りを活用している点に注目します。住民が地域一丸となって取り組むお祭りの場において、歯科優良児童の表彰や、歯科検診事業を行うことで、事業を広く認知してもらっているようです。表彰された児童や保護者は誇らしいですし、他の子ども達のモチベーションも上がるでしょう。さらに、地域住民の意識も高まります。地域全体で取り組む保健事業において、お祭りや盆踊りなどの地域行事の活用は重要なツールとなるのではないかと期待しています。(HN)</p>



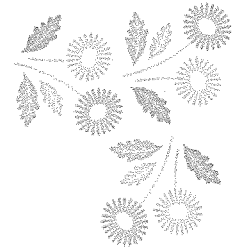
むし歯のない子の紹介  
～産者の里健康フェスティバルに



ジュース作りの体験(砂糖量の確認)  
～教員振興運動実践班活動～



みんなで取り組んだ  
歯の健康づくり発表会

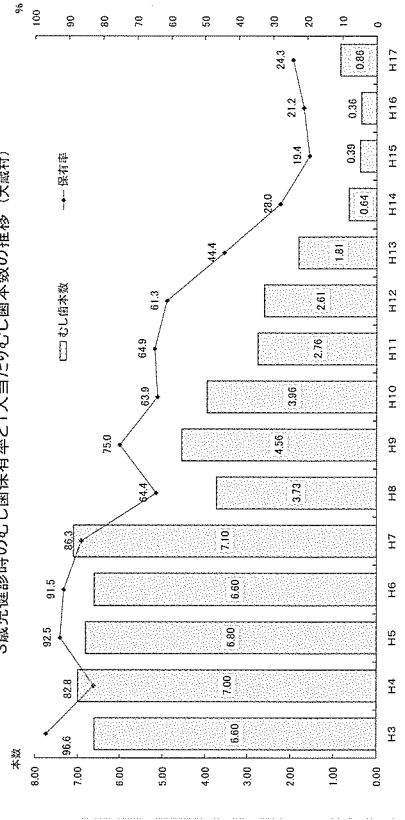


<p><b>大蔵村住民福祉課：ヘルシーティーヌ事業</b></p> <p>住所 〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水 2528                  (TEL)0233-75-2111 (FAX)0233-75-2231                  (E-Mail)info@vill.ohkura.yamagata (ホームページ)http://www.vill.ohkura.yamagata.jp</p> <p>人口 4,199 人(出生数 26 人)</p> <p>母子保健担当者：保健師、全保健師数 2 人(母子保健担当保健師数 1 人)</p> <p>区分：市町村(保健センター等)</p>	
事業課題	<p>■健康日本 21 に含まれる母子保健に関するテーマ(栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進)</p> <p>大蔵村は県内でもむし歯が多く、様々な対策を講じても効果が見られなかった。H11 に県のモデル事業として勧めがあり、3 年計画で地域住民代表による歯科保健推進協議会を設置し、みどり理論を応用しながら実施、ヘルスプロモーションの考えに基づき、住民主体型の活動を始めた。調査の結果、おやつとの与え方とフッ素利用の少なさが問題点としてあげられた。</p>
提案者	住民自治体の長
事業のねらい・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3 年間で 3 歳児のむし歯の数を 1 人平均 5・6 本から 2 本にする。</li> <li>・夕食後に甘い物を食べる割合を 45%から 20%にする。(当時 45%)</li> <li>・1~3 歳児まで年 3 回以上フッ素塗布を 80%にする。(当時 32%)</li> </ul> <p>■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める</p> <p>■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</p>
数値目標	数値目標あり
対象	幼児
実施期間	平成 11 年 4 月 ~ 未定
事業内容	<p>1~4 歳に達するまでの幼児に 3 カ月毎に歯科検診、フッ素塗布を行い、その際、問診、事後指導を通しておやつや生活リズムの選び方や与え方、生活リズムについて考え行動にうつせよう支援する。また、食改協議会のおやつについての勉強会、口コミによるおやつ指導、住民の働きかけによる防災無線でのおやつ注意報の実現等、住民による取り組みも大きな役割を持っている。</p> <p>■その他(チェックなし)</p>
協力機関	診療所
住民参画状況	計画から参加
従事者内訳	歯科医師 保健師 歯科衛生士 事務職員
補助金・助成金	なし
事業の評価	<p>現在も事業は続いているが、H14 年に 3 歳児のむし歯本数 1 人平均 0.64 本、夕食後甘いものを食べる割合は 24%、フッ素塗布率は 90%となった。</p>

今後の課題	<p>目標は達成したものの、事業開始から長期間が経過している。</p> <p>目標数値の達成は継続しているもの、おやつとの与え方等、少しみだれが出てきている。改めて、個々に対する支援を強化していく一方、今後も住民の声や組織の力をいかして、住民主体のむし歯予防に取り組んでいく。</p>
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	記入なし
*** コメント ***	<p>ヘルスプロモーションの考えに基づき、住民主体型の活動を展開し、数値目標を達成した歯科保健事業である。特に、口コミによるおやつ指導や、住民からの働きかけから防災無線での「おやつ注意報」を実現した点等は、主役が住民である事業ならではの取り組みといえる。数値目標達成も、地域あげての活動の成果であったと評価したい。(HN)</p>



3歳児健診時のむし歯有病率と1人当たりむし歯本数の推移 (大蔵村)



<p><b>甲州市子育て支援課：妊産届出時からの母子保健における食育推進事業</b></p>	
<p>住所 〒404-8501 山梨県甲州市塩山上於 1040 (TEL) 0553-32-5081 (ホームページ) <a href="http://www.city.koshu.yamanashi.jp/koshu/">http://www.city.koshu.yamanashi.jp/koshu/</a></p>	
<p>人口 36,843 人(出生数 249 人) 母子保健担当者：事務 保健師、全保健師数 16 人(母子保健担当保健師数 4 人) 区分：市町村(保健センター等)</p>	
事業課題	<p>■健康日本 21 に含まれる母子保健に関するテーマ(栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進)</p>
事業の背景	<p>食育を推進するにあたって、妊娠時からの食への支援を行ってきた。そのなかで栄養士との事業展開において「手ばかり」というツールを構築し、妊娠・出産・育児において一貫した支援ができるように母子保健事業のなかに組み込んだ。</p>
提案者	<p>母子保健担当者 その他(栄養士)</p>
事業のねらい・目標	<p>妊娠時に普段の食生活を見直し健やかな子どもを出産できるよう、そして産後も母乳育児、離乳食、幼児食といった成長していく子どもの食習慣を形成する上で誰でもわかりやすく、一貫した食事バランスと適正量を母親達と一緒に確認できるツールを使用して、生涯を通じて健康な食習慣を身につけていけることを目指す。</p> <p>■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</p>
数値目標	<p>数値目標あり</p>
事業内容	<p>対象 新生児 乳児 幼児 母親 妊産婦 家族 関係者・関係機関 実施期間 平成 15 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月 5 年計画</p> <p>甲州市では、保健活動、とくに食生活に関する指導には「塩山式手ばかり」を子どもから成人まで利用している。</p> <p>妊産届出時、マタニティクラス、すくすく学級(育児学級)に参加する際、その都度手ばかりチェック表に日ごろの食事の様子を記入してもらうことで、自分の体格に合った適正量と栄養バランスを確認する機会とする。</p> <p>また、記入してもらったチェック表を個人の管理カードに添付し保存して、保健師、助産師、栄養士が妊産婦・新生児訪問、乳児訪問、乳幼児健診等母親の相談を受ける際にはその都度情報として相談・指導に活用している。</p> <p>■既存事業の工夫 ■個別支援や集団支援のツール開発 ■ネットワークの推進 ■マニュアル・ガイドラインの作成 ■調査・研究</p>

協力機関	保健センター・保健所
住民参加状況	実施主体側として
従事者内訳	保健師 栄養士 助産師
補助金・助成金	国
事業の評価	<p>手ばかりチェック表を数値化して食べる量とそのバランスを評価する。主に野菜の摂取量を年的に評価指標とする。</p>
今後の課題	<p>現在、保健センターでの事業以外でも地域に普及していくように食育推進においては、保育所、学校等地域へ出前事業を展開している。今後、「塩山式手ばかり」を住民により周知して浸透していくことが課題である。</p>
取り組みの事業に関するホームページ	<p><a href="http://www.city.koshu.yamanashi.jp/koshu/">http://www.city.koshu.yamanashi.jp/koshu/</a></p>
キーワード	手ばかり
コメント	<p>*** コメント *** ここに注目！ 栄養・食生活の改善を目的に、妊娠初期から育児期にかけて継続的に食事・栄養指導を行っている。その際、市が独自に開発した「手ばかり」を用いて、各自の体格にあった指導を容易に行える点が評価できる。</p> <p>・エビデンスは？ 妊娠初期は、妊娠貧血、妊娠高血圧症候群など食事・栄養に関連した合併症があり、また、骨代謝が亢進しているなど、食事・栄養摂取に関連した指導は重要である。さらに小児の肥満には、幼児期の食習慣も大きく影響している。このようなエビデンスから、母子一体となった、妊娠初期からの指導は重要であり、評価できる事業といえよう。 (KS)</p>

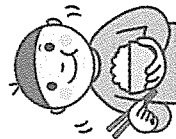






<p><b>大阪府岸和田保健所：～野菜バリバリ朝食モリモリ～食育推進プロジェクト</b></p>	
<p>住所 〒596-0076 大阪府岸和田市野田町3丁目13-1 (TEL)072-422-5681 (FAX)072-422-7501</p>	
<p>人口 295,000人(出生数3,120人) 母子保健担当者：保健師、全保健師数16人(母子保健担当保健師数4人) 区分：都道府県保健所</p>	
事業課題	<p>■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ(栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進)</p>
事業の背景	<p>大阪府では、全国平均に比べて、がんや心疾患等の生活習慣病による死亡割合が大きいが、これらの疾患は、日ごろの食生活と関連が深く特に野菜と果物の摂取が多いほど発症リスクが低減することは明らかになっている。</p>
提案者	<p>自治体の長</p>
事業のねらい・目標	<p>規則正しい食生活の習慣を子ども頃から身につけることは健康づくりの重要な基礎である。このため、学校と家庭、地域、外食・流通産業及び産地とが連携した多方面からのアプローチで、野菜を作る、選ぶ、買う、料理する、食べるという行動を通じて、子どもの野菜・果物に関する認知度を高め、その摂取を増やすとともに「しっかり朝ごはん」をとるための啓発を行う総合的な「食育」を推進する。                  ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める                  ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</p>
数値目標	<p>数値目標あり</p>
事業内容	<p>対象 学童 父親 母親 関係者                  実施期間 平成15年4月～平成18年3月 3年計画                  ①学校関係者等における連絡調整会議開催及び参加(継続)                  ②食育に関する研修会、講演会等の開催(継続)                      ○学校関係者対象研修会                      ○子ども・保護者向け食育講座、講習会                  ③健康栄養情報提供(継続)                      ○教材の貸出、提供(貸出票、活用状況の整備)                      ○学校関係者向け「おたより」の発行(年3回)                      ○特別非常勤講師の紹介・派遣                  ④食育啓発のためのイベントの実施                      ○プロの調理人と一緒に作る「野菜バリバリたこ焼き&amp;お好み焼き食育体験                      ○食育かるたコンクールと食育啓発イベントの実施                  ⑤食教育実施状況調査の実施                  ■人材育成の強化(研修等) ■調査・研究</p>
実施内容	

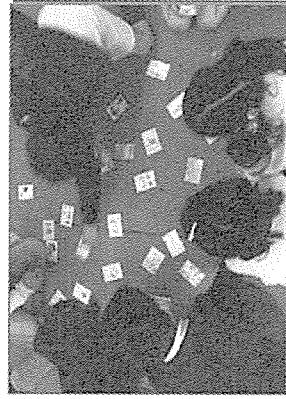
協力機関	<p>保健センター・保健所 学校 教育委員会 地域のボランティア その他(泉州農と緑の総合事務所、JA)</p>
住民参加状況	<p>その他(「食育かるた」応募数2986作品、イベント参加416人)</p>
従事者内訳	<p>保健師 栄養士 事務職員 教員 養護教諭</p>
補助金・助成金	<p>都道府県</p>
事業の評価	<p>①食育教材の活用回数の増加                  ②食育の実施率の増加                  ③朝食欠食率の減少                  ④野菜摂取の増加</p>
今後の課題	<p>平成18年度からは、対象を幼児にも広げ、保育所・幼稚園等での食育推進を図る</p>
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	<p>母子保健 栄養 運動 食生活</p>
*** コメント ***	<p>ここに注目！大阪府が平成15年度から取り組んでいる食育推進プロジェクト保健所での展開事例。保健所と学校との調整会議、研修会、健康栄養情報の提供等の基盤の上に、大阪版 PPP(Public Private Partnership)として企業と連携して取り組んでいる。「プロの調理人と一緒に作る」の野菜バリバリたこ焼き&amp;お好み焼きは子どもが喜んで参加しそうな内容である。食育カルタコンクールでは 2886 件もの応募があり事業の広がりのある。地域のボランティアや農政部門、JAとの協力もあり協力体制も強化している。</p>
(TN)	<p>エビデンスは？国立がんセンターがん対策情報センターでは、日本人を対象とした大規模コホート研究から、野菜・果物をほとんど食べない人では、胃がんや大腸がんのリスクが高くなる可能性があり、また野菜・果物ががんだけでなく脳卒中や心筋梗塞などをはじめとする生活習慣病の総合的な予防に有効として、現状において日本人に推奨できるがん予防法として、「野菜・果物不足にならない」をあげている。</p>



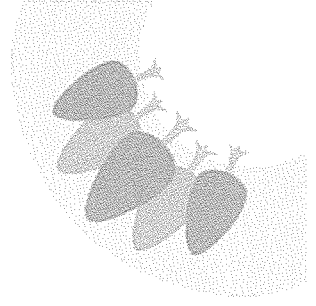
### 食育かるたコンクール 最終審査の様子



### 食育かるた遊びコーナー



野菜の食べ方、地場の野菜紹介、健康への効果、朝食の食べ方、食品の紹介、バランスよく食べる方法などに関する楽しい作品が集まりました。



<p><b>大阪府池田保健所：食育推進プロジェクト-保育園等における食育支援-</b></p> <p>住所 〒563-0041 大阪府池田市満寿美町3-19          (TEL)072-751-2990 (FAX)072-751-3234          (E-Mail)ikedahoken@sbox.pref.osaka.jp (ホームページ)http://www.pref.osaka.jp/ikedahoken</p> <p>人口 265,470人(出生数1,982人)</p> <p>母子保健担当者：事務 保健師、全保健師数18人(母子保健担当保健師数4人) 区分：都道府県保健所</p>	
事業課題	<p>■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ(栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進)</p> <p>大阪府は生活習慣病による死亡率が高く、関連の深い食生活面で朝食欠食や野菜不足など課題が多い。そこで、子どもの頃から健康的な食習慣をつけられるよう小学校等の食育支援を行ってきたが、さらに保育園等における食育支援を実施し、子どもの発達に合わせた食育をすすめることが重要である。</p>
事業者	自治体の長
事業のねらい・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の効果的な食育方法の検討と普及</li> <li>・地域の食育関係団体等との連携</li> <li>・子どもの発達に合わせた一貫した食育の推進</li> <li>■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める</li> <li>■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する</li> <li>■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</li> </ul>
数値目標	数値目標なし
対象	乳児 幼児 父親 母親 関係者
実施期間	平成18年4月～平成21年3月 3年計画
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的なすすめ方を探るため、保育園でモデル的に食育支援を実施する。</li> <li>・食育を応援する地域活動栄養士会や地元の商店などとの連携をすすめる。</li> <li>・乳幼児期から学童期の食育関係者間の情報交換のため研修会・連絡会を開催する。</li> <li>■既存事業の工夫 ■個人支援や集団支援のツール開発 ■ネットワークの推進</li> <li>■情報システムの構築 ■人材育成の強化(研修等)</li> </ul>
協力機関	保健センター・保健所 保育園 幼稚園 学校 教育委員会 地域のボランティア
住民参画状況	実施主体側として
従事者内訳	保健師 栄養士 保育士
補助金・助成金	都道府県

事業の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期における効果的食育方法の構築</li> <li>・食育関係者研修会・連絡会参加状況</li> <li>・地域活動栄養士会、商店など食育支援者との連携状況</li> <li>・モデル保育園保護者対象アンケート結果</li> <li>・「食育計画」に基づく食育実施率</li> </ul>
今後の課題	
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	保育所 食育
*** コメント ***	ここに注目！
	<p>大阪府が平成15年度から取り組んでいる食育推進プロジェクトの保健所での展開事例。地域活動栄養士会や地元の商店等と連携して事業を進めていることがよい。住民が日頃利用している商店街の事業者が食育を理解し、健康的な食環境がつけられることが期待される。</p> <p>エビデンスは？</p> <p>商店街を巻き込んだ事例としては、世田谷区における「食を通じた健康づくりのための食環境整備事業(地域、学校、民間との協働事業)」がある。その内容は、子どもたちが主体的に活動できるよう工夫され、また大学が事業効果について検証している。</p> <p>文献：武見ゆかり「商店街を巻き込んだ食育の取り組み：世田谷区ばくばく健康キッズ&amp;タウンの事例」思春期学、vol22、no4、466-474、2004 (TN)</p>



いけだ地域栄養士会「葉菜の会」協力

<p><b>熊本県水俣保健所：子どもの食育パートナーシップ事業</b></p> <p>住所 〒867-0061 熊本県水俣市八幡町2丁目2-13                  (TEL)0966-63-4104 (FAX)0966-63-3289 (E-Mail)ashihohoken@pref.kumamoto.lg.jp                  (ホームページ)http://www.pref.kumamoto.jp/shinkoukyoku/ashikita_hp/syokuiku/home.html</p> <p>人口 59,261人(出生数 464人)</p> <p>母子保健担当者・保健師 栄養士、全保健師数 6人(母子保健担当保健師数 1人) 区分・都道府県保健所</p>	
事業課題	<p>■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ(栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進)</p>
事業の背景	<p>生活習慣病の増大による健康問題や BSE 問題、産地表示偽装の食環境問題等、将来を担う子どもの食を取り巻く問題が危惧されており、食料生産・流通・販売・消費を全体として捉えた食育が必要である。また、これまでの食育の取り組みは、保健・農林・教育とそれぞれの分野で独自に実施されてきており、これらの連携した取り組みが効果的である。</p>
提案者	<p>その他(栄養士)</p>
事業のねらい・目標	<p>水俣・声北地域の子ども達を「ふるさとを愛し誇りに思う子ども、自然に親しみ思いやりのある子ども」に育むため、管内の食に携わる保健・農林・教育・食産業の関係者及び地域住民、NPO 等とのパートナーシップの構築により効果的な食育の推進を図る。</p> <p>■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</p>
数値目標	<p>数値目標あり</p>
対象	<p>乳児 幼児 学童</p>
実施期間	<p>平成 15 年 4 月 ～ 平成 20 年 3 月 5 年計画</p>
協力機関	<p>保健センター・保健所 保育園 幼稚園 学校 教育委員会 大学・研究機関                  地域のボランティア その他(JA、物産館、NPO、企業等)</p>
住民参画状況	<p>計画から参加</p>
従事者内訳	<p>保健師 栄養士 医師 事務職員 保育士 教員 養護教諭 その他(保護者、地域住民)</p>
補助金・助成金	<p>都道府県</p>

<p>1. 食育連携会議の開催(H15 年度～)</p> <p>子どもの食に携わる関係機関及び保護者代表が連携して食育を推進するための方法及び実施評価を行う</p> <p>2. 子どもの食育実態調査(H15 年度)</p> <p>管内の子どもの食育の推進状況を評価するための現状把握として、食行動に影響を及ぼす食能力や周囲のサポート状況、食環境の整備状況等を調査。</p> <p>3. 「水俣・声北地域子どもの食育推進計画」策定(H16 年度)</p> <p>管内全州市(1市2町)で関係機関及び地域住民の参画のもと計画を策定。</p> <p>4. 各市町食育推進計画の実施(H18 年度～)</p> <p>各市町に「食育計画推進部会」を設置し、計画にそった取り組みを実施するための方法等について協議し、モデル事業を実施・評価する。</p> <p>5. 食育フォーラムの開催(H15 年度～)</p> <p>地域住民に食育への理解と地域における食育に関する取り組みを共有するためのイベントを開催。</p> <p>6. 食育推進計画の評価(H19 年度)</p> <p>食育実態調査を実施し、計画の評価を行う。</p> <p>■既存事業の工夫 ■ネットワークの推進 ■情報システムの構築</p> <p>■マニュアル・ガイドラインの作成 ■調査・研究</p>	<p>実施内容</p>
<p>1. 最終目標</p> <p>ふるさとを愛し誇りに思う子ども、自然に親しみ思いやりのある子どもを増やす</p> <p>2. 健康目標</p> <p>こころの健康と身体健康目標を設定</p> <p>3. 食生活目標</p> <p>6つの食生活目標を設定</p>	<p>事業の評価</p>
<p>各行政機関の職員が変わっても継続できる体制づくり</p>	<p>今後の課題</p>
<p>http://www.pref.kumamoto.jp/shinkoukyoku/ashikita_hp/shokuiku/home.html</p>	<p>取り組みの事業に関するホームページ</p>
<p>食育、子ども、パートナーシップ</p> <p>*** コメント ***</p> <p>ここに注目！食育基本法の制定前の平成 15 年度から圏域独自の「パートナーシップ事業」として地域振興局の保健福祉環境部・農林部・教育事務所が連携して進めた。またヘルズプロモーションの視点に立ち、実態調査の調査項目の設定から関係者とともに検討し、望ましい食行動に必要な個人の技術・周囲のサポート・食環境の整備等について調査を行っている。さらに調査結果をもとに関係者と課題と目標の共有し、圏域の食育推進計画、市町食育推進計画が策定されるなど、地域に根ざした対策を戦略的に進めている。</p>	<p>エビデンスは？平成 19 年度には再度「子どもの食育実態調査」を実施し事業評価及び事業内容の見直しが行われ、根拠に基づいた事業実施が行われるよう配慮されている。</p> <p>(TN)</p>